

インターネットによる漢方の情報提供  
開始に伴うお願いの件

漢方の本草閣では業界に先立ち5年前よりインターネットホームページを開設し漢方・和薬・病・生薬・薬草・養生・予防・健康食品・等々の情報を皆様にお伝えして来ました。今回ホームページをより良い物に改善しつつ御希望の方にメールにて定期的に種々の情報を送信致します。つきましてはメールアドレスを下記のアドレスまで連絡下さいませにお願い致します。

記  
kanpou@honsoukaku.co.jp (8月25日以降)

漢方の普遍性

携帯電話、インターネット、デジタル化…など、今のわれわれの身の回りは常に進歩変化しています。現代医学も医療機器、検査機器と日々進歩変化し、また新薬も続々と開発されています。ところが、漢方は2000年以上もの間、何も変わっていません。

現代医学、つまり西洋医学は病気の悪い部位を見いだして、症状をおさえたり、場合によっては切除したりして病気を治します。しかしこのやり方では、治療に限界があるのではないかと気がつきはじめました。患者を人として全体を見て、その人の持っている自然治癒力を引き出そうとしました。この考え方は漢方では、はじめから当たり前のようによくやっていたことでした。そういう意味では、西洋医学がやっと漢方に追いついてきたと言えるかもしれません。

漢方には漢方独特の病理観、人間観があります。基本的な考え方としての陰陽五行説、表裏内外、治療法則としての三陽三陰を取り入れた傷寒論などの古典、…これらを駆使して治療に取り組み、症状をおさえるのではなく、自然治癒力を最大限に引き出そうとします。この考え方は2000年以上の間、何ら変わることなく、どの時代でもどんな患者さんにも対応できるものであります。このように現代医学とは全く違う考え方により、病院ではなかなか良くならなかった方が漢方で良くなったということがあるのです。

このようにずっと長い間変わっていない漢方の世界とは、進歩のない古臭いものではなく、漢方の持っている普遍性であると言えることができます。

[文責 水野 英章]



《編集後記》

先回のかわら版にて漢方の本草閣特製・和薬の健康食品(男用・女用)のネーミングの募集をいたしましたところ、沢山の方より応募頂き誠に有り難うございました。

今のところ剤型の変更希望があるなど、改良すべき点がいくつかあるため、研究開発中となっています。よって、未だ名前が決定しておりません。今しばらくお待ちください。

[かわら版編集部 水野、近藤]

＝俳句紹介＝

木<sup>き</sup>球<sup>きゅう</sup> 木<sup>こ</sup>夏<sup>なつ</sup> 糸<sup>いと</sup>  
下<sup>した</sup>児<sup>こ</sup> 洩<sup>もら</sup>休<sup>やす</sup> と  
聞<sup>き</sup>ら<sup>ら</sup> 日<sup>ひ</sup>み<sup>み</sup> ん<sup>ん</sup>  
の<sup>の</sup> の<sup>の</sup> ぼ<sup>ぼ</sup>  
墓<sup>かぶ</sup> 熱<sup>あつ</sup> 鳩<sup>と</sup> 深<sup>ふか</sup> う<sup>う</sup>  
標<sup>ひょう</sup> は<sup>は</sup> 熱<sup>あつ</sup> 鳴<sup>な</sup> 夜<sup>よ</sup> の<sup>の</sup> ぬ<sup>ぬ</sup>  
は<sup>は</sup> 血<sup>ち</sup> 潮<sup>うしほ</sup> く<sup>く</sup> 散<sup>ちり</sup> ぼ<sup>ぼ</sup>  
苔<sup>こけ</sup> の<sup>の</sup> や<sup>や</sup> 社<sup>やしろ</sup> 歩<sup>あゆ</sup> れ<sup>れ</sup> 鏡<sup>かがみ</sup>  
袴<sup>はかま</sup> は<sup>は</sup> 雲<sup>くも</sup> 合<sup>あ</sup> 娘<sup>むすめ</sup> に<sup>に</sup>  
は<sup>は</sup> き<sup>き</sup> 雲<sup>くも</sup> 炎<sup>えん</sup> の<sup>の</sup> 二<sup>ふた</sup> 見<sup>み</sup>  
は<sup>は</sup> き<sup>き</sup> 炎<sup>えん</sup> ゆ<sup>ゆ</sup> る<sup>る</sup> 花<sup>はな</sup> 人<sup>ひと</sup> と<sup>と</sup>  
れ<sup>れ</sup> お<sup>お</sup> り<sup>り</sup>

悦<sup>えつ</sup> 小<sup>こ</sup> 康<sup>かやう</sup> 譽<sup>よ</sup> 淳<sup>じゆん</sup>  
子<sup>こ</sup> 平<sup>へい</sup> 子<sup>こ</sup> 子<sup>こ</sup> 子<sup>こ</sup>

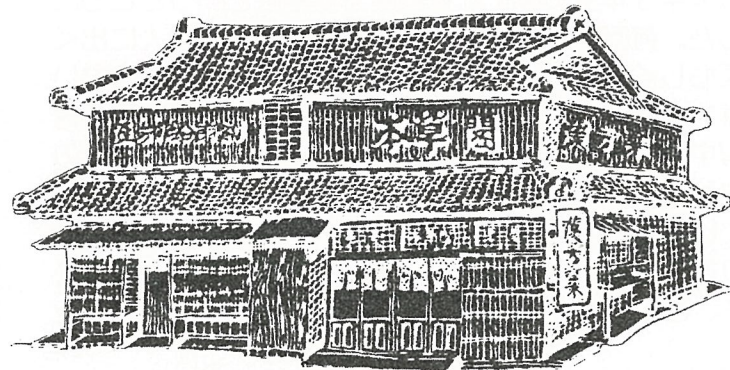
本草閣  
かわら版

平成11年8月15日発行  
(偶数月の15日発行)  
☎460-0012  
名古屋市中区千代田5-21-17  
漢方の本草閣内  
「本草閣かわら版」編集部  
編集責任者 水野 英章  
TEL 052-241-3388  
FAX 052-251-3294

http://www.honsoukaku.co.jp  
E-mail: kanpou@honsoukaku.co.jp

第38号

心療相談室  
TEL 090-  
3156-1883



我々の身体の中の水分について

我々は毎日たくさんの水分(水・お茶・ジュース・牛乳・青汁・果物……等々)を摂取しています。口から入った水分は主に大腸より吸収され血液・リンパ液にて全身行き届いてゆきます。水分は主に小便・汗・大便で排出されますが、汗が多い時には小便が少なくなりますし、小便が多いと大便の水分が減りますので便が固く便秘ぎみになります。下痢の時には、小便を出す民間薬(とらふしの痔)にて下痢が止まります。

身体に不必要な水分が身体の外に出ないと浮腫(むくみ)になり、全身の水分が多いと水太りになります。目安としては皮膚の皺(しわ)が極めて少ないと浮腫・水太りと考えられます。普通浮腫は腎臓・心臓の弱りが多く、腎臓の弱りは下肢(足)によく見られ、上半身(顔など)の浮腫は心臓の弱りが多いようです。そこで漢方薬の治療としては、それぞれ症状に対し、利尿剤(五苓散等)強心剤(牛黄等)が良く用いられます。

日本特に名古屋は高温多湿です。空気中に水分が多いと身体の内にも水分が多くなります。このため関節部分・胃腸の回りに水分が集まりやすくなります。水分が関節部分に集まりクーラ等で冷やされると関節炎等の痛みとなって発病し、胃腸の回りに水分が多くなると胃腸の動きが鈍くなり食欲等がなくなります。

こんな関節炎・食欲のない方が空気の乾燥したハワイ・中国・ヨーロッパ等に旅行しますと関節の痛みが軽くなり、また食欲が出て大きなステーキが食べれるようになります。これは身体の中の余分な水分が空気中に出て症状をよくする為です。ですから各地区の気候によって病が異なり、湿気の多いが為の病・逆に乾燥し過ぎる為の病になるのです。

今一つ最近目眩(めまい)で悩まれる方が多いのですが、この目眩の原因の一つに身体の中の余分な水分が頭部・首より上(耳の奥)に多く水分が出にくいと目眩をおこします。又血液の中の水分が少なくなる事を脱水症状と言い、熱暑病・下痢・火傷・等々で血液の中の水分が減り流れにくく詰まりやすく危険です。適度な水分をとり急な場合は早々に点滴にて直接血液の中に水分を補給します。専門家に急いで相談下さい。

人間も含めた生物には、水はなくてはならないものです。汚染されていない綺麗な水を取りたいものです。昔の人は赤ちゃん・病人・身体の弱った人には「湯冷まし」を飲ませ使用したものです。身体に優しい水を先人は経験で知っていました。いい水を身体に!

神様・仏様にも毎日いい水を差し上げるのも我々日本人の役目です。  
[文責 林 警史朗]

夏休みを利用した医療実習生が、この夏にもやってきました。今回は初めての男性ということで、また違った雰囲気となりました。以下そのレポートです。

名城大学薬学部医療薬学科4年 上原 俊介

幼少の頃よりアレルギー性鼻炎を患っていたため、図らず漢方薬と縁があった。嫌いな物は、両親が何と言おうと口にしない頑固な子供だったようだが、不思議と処方してもらった苦い薬は飲み続けた。鼻の方は西洋薬を服用し続けていた頃より良くなっていたが、惜しいかな節制が出来ていなかったため、その悪習のためせっかくの漢方薬の効果を減弱させていた。

漢方を本格的に学びだしたのは大学3年生の時、東海漢方協議会というところに入会し、月1回の勉強会に参加した。何回目の時だったか、不思議な風貌の人に出くわした。その人は、その筋の組長もしくは幹部クラスの人間に見え、目を合わさないようにしていた。実はその人が林先生であり、それが林先生との出会いだった。実際の林先生は心の優しい方で、実習中も未熟な自分にたいそう気を使ってくれた。その他の先生方も親切で適切な指導をしてくれた。

本草閣での実習は変化に富んでいて楽しかった。私のために宴会も開いてくれたし、勉強するカリキュラムもしっかりしていたし、自由で温かい雰囲気だった。私は、この実習中に学んだことを糧として、さらに知識を身につけていきたい。



《行事予定》

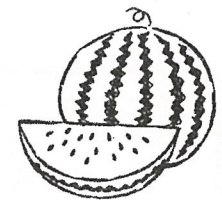
日時	担当者	日時	担当者
★漢方講演会 (毎月4曜) PM1:30~PM3:00 (会費 有料)	8. 23 (月) 浮亀 浩 9. 27 (月) 浮亀 浩	★753会 (俳句・川柳素人の会) (毎月4曜) PM1:30~PM3:30 (会費 ¥500)	8. 24 (火) 林 馨史朗 9. 28 (火) "
★本草閣講演会 (毎月3木曜) PM2:00~PM4:00 (会費 ¥500)	9. 16 (木) 山崎 傑 10. 21 (木) 浮亀 浩	★ささやか文化祭 【御買い上げの際、節句に因んだ品物を進呈いたします。】	9. 9 (木) 重陽の節句
★何でも花草会 (毎月1火曜) PM1:30~PM3:30 (会費 ¥500)	9. 7 (火) 林 馨史朗 10. 5 (火) "	★薬草観察会	9. 26 (日) 別記参照
会場 中日文化センター	会場 与志桜ビル	会場 与志桜ビル	会場 与志桜ビル

支店紹介

和漢・漢方の本草閣 緑店 名古屋市緑区潮見ヶ丘2-320 店長 北川 正廣 (営業時間 AM10:00~PM7:00) (年中無休) TEL 052-895-4982 FAX 052-895-4910	和漢・漢方の本草閣 西春店 西春日井郡西春町大字西之保 字青野東35 店長 早川 浩次 (営業時間 AM10:00~PM7:00) (定休日 毎週日曜日) TEL 0568-24-6480 FAX 0568-25-6551
---	---



薬草ウルトラクイズ



★テーマ：夏

(出題者：本草製薬(株)・吉田 将士)

★問題：夏の代表的な食べ物といえばスイカがありますが、このスイカはウリ科に属します。ウリ科にぞくする植物にキカラスウリという薬草があり、その根を薬用に用います。ズバリその生薬は次のうちどれでしょうか。(ヒント：漢字で書く「瓜楼根」と書きます。)

- A. カラスコン
- B. カロコン
- C. ロボコン

\*A~Cより解答をお書きのうえ、下記のところへご応募ください。FAXでも結構です。

☎460-0012

中区千代田5-21-17 漢方の本草閣 近藤宛

FAX 052-251-3294

\*正解者の中から抽選で記念品をお贈りします。尚、解答と解説は次号に掲載させていただきます。

★前号の答え：A (アマドコロ)

イズイはアマドコロの根で強壯作用を目的に用いられます。その他の2つは実在しません。アマドコロとよく似ている植物にナルコユリがあります。これも根を同様に用い、生薬名を「黄精(オウセイ)」といいます。

★ご当選の皆様：〔順不同〕

- 津島市 水野 しな子
- 昭和区 荻野 秀子
- 中区 武市 君子
- 北区 古川 さよ子
- 昭和区 吉田 一夫

ご応募を多数お寄せいただき、ありがとうございました。抽選の結果、左記の方に本草閣はちみつ飴をお送りします。

薬草観察会 開催のお知らせ

恒例の薬草観察会を開催することとなりました。自然の中にある薬草を皆様と一緒に観察し、薬草料理のコースを賞味したいと思います。皆様お誘い合わせの上、ご参加ください。

日時	平成11年9月26日(日) 午前7時45分 本草閣薬局本店前集合 午後5時00分 解散予定 (小雨決行)
行き先	金華山周辺
会費	8,000円(薬草料理、バス代を含む)
申込み	本草閣薬局 ☎052-241-3388 (担当 渡辺)